

愛西市第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定のための 調査の概要及び日常生活圏域別分析について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

(2) 調査の期間

令和2年1月20日から令和2年2月3日

(3) 調査方法

対象者を無作為抽出し、郵送による配布・回収

(4) 回収状況

	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3,000 通	2,085 通	1,938 通	64.6%
介護実態調査	1,000 通	589 通	589 通	58.9%
介護支援専門員	100 通	75 通	75 通	75.0%
介護保険事業者	100 通	64 通	64 通	62.0%

(5) 調査結果の表示方法

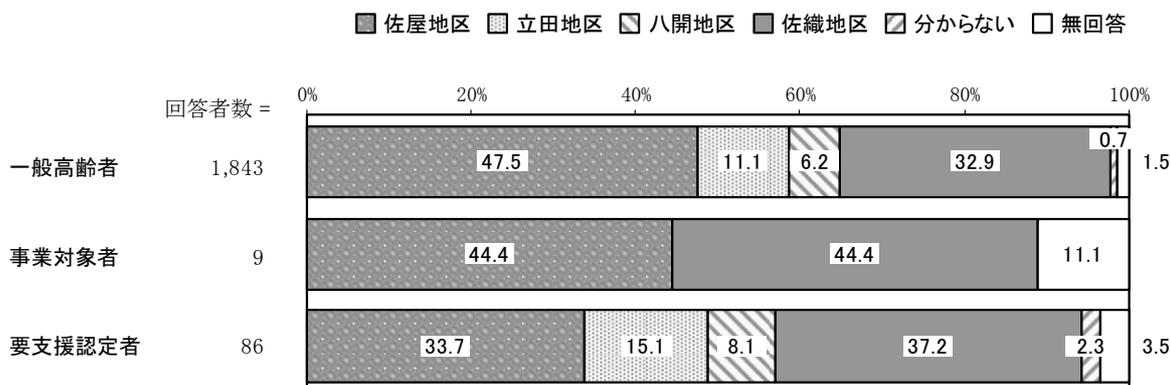
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

2 有効回答者の属性等

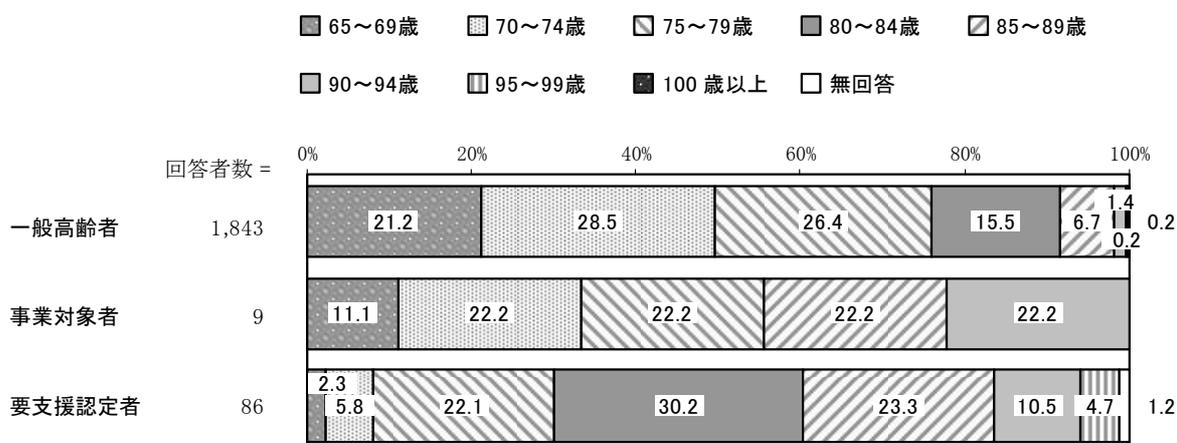
(1) 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

○回答された一般高齢者、事業対象者、要支援認定者の居住地区、各年齢階級の割合は以下のとおりとなっています。

■回答者の地区【問A】



■回答者の年齢【問C】

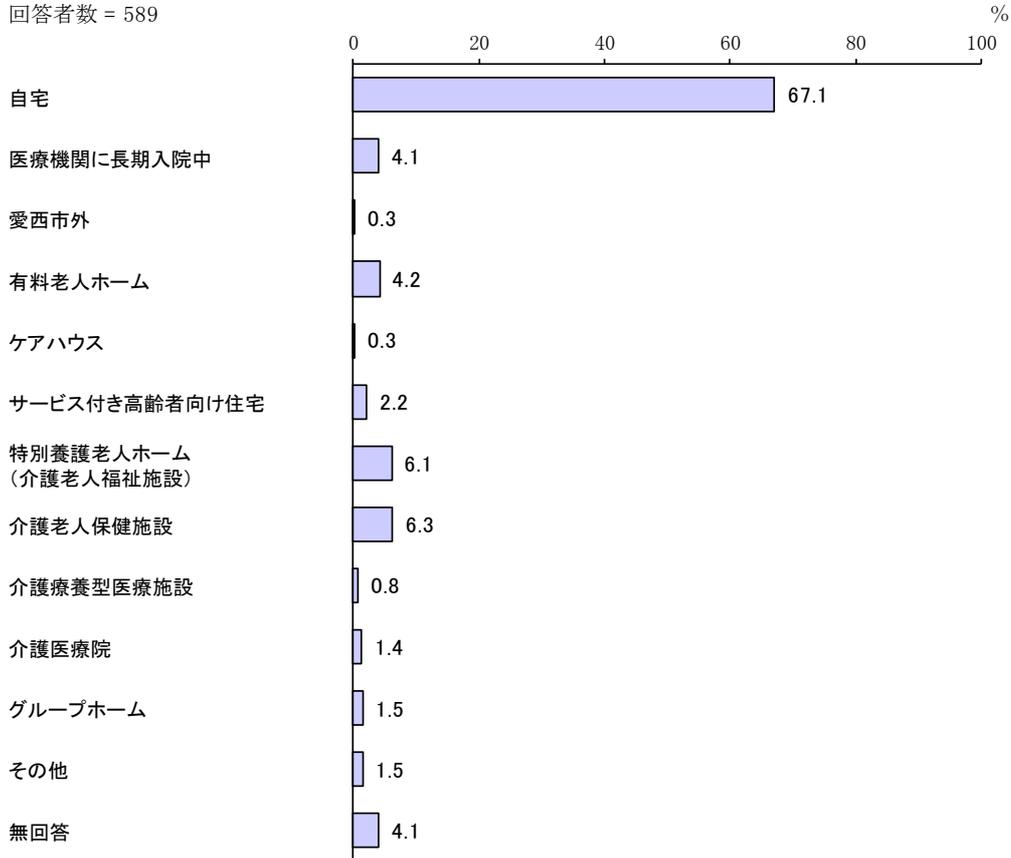


(2) 介護実態調査

○回答された65歳以上の要介護認定を受けている方が現在、生活している場所は「自宅」の割合が67.1%と最も高くなっています。

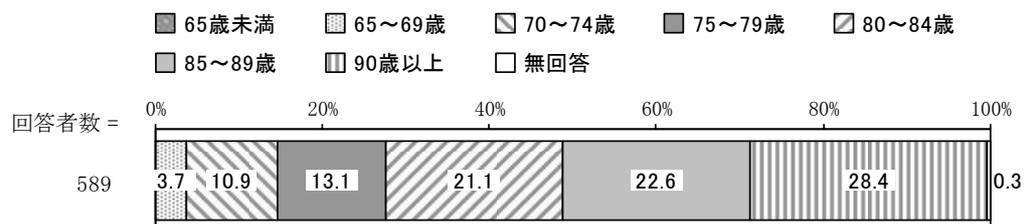
■現在、生活している場所【問2】

回答者数 = 589

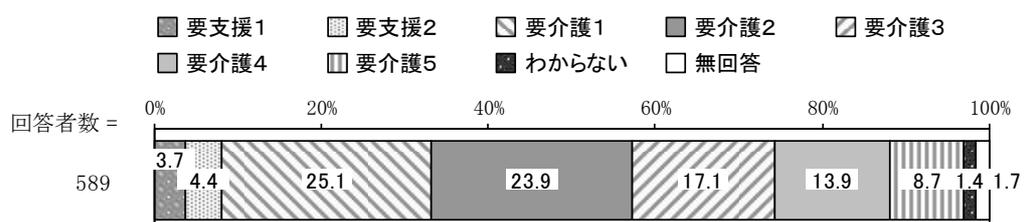


○回答者の各年齢階級、要介護度の割合は以下のとおりとなっています。

■回答者の年齢【問5】



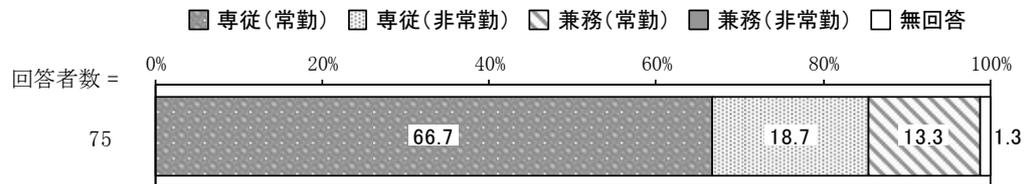
■回答者の要介護度【問6】



(3) 介護支援専門員調査

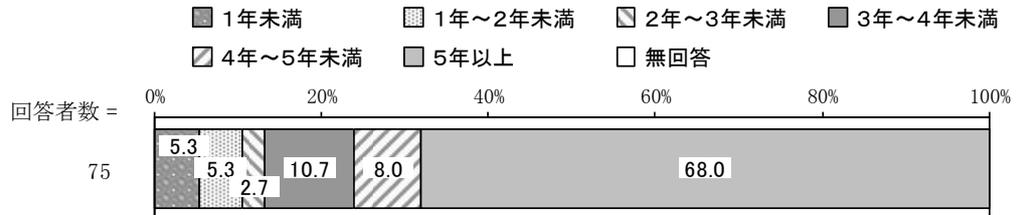
○「専従(常勤)」の割合が66.7%と最も高く、次いで「専従(非常勤)」の割合が18.7%、「兼務(常勤)」の割合が13.3%となっています。

■勤務形態【問1】

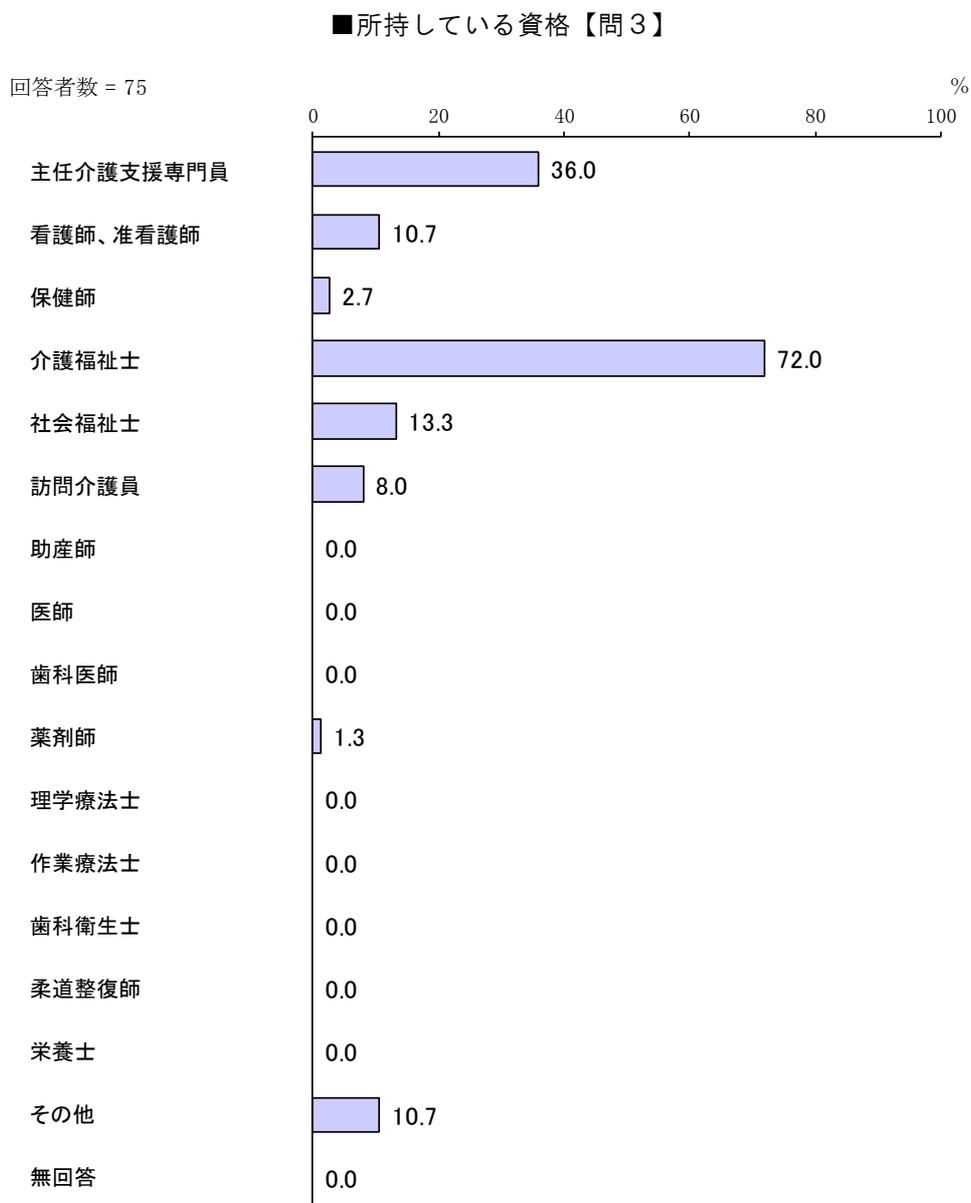


○「5年以上」の割合が68.0%と最も高く、次いで「3年～4年未満」の割合が10.7%となっています。

■介護支援専門員としての経験年数【問2】



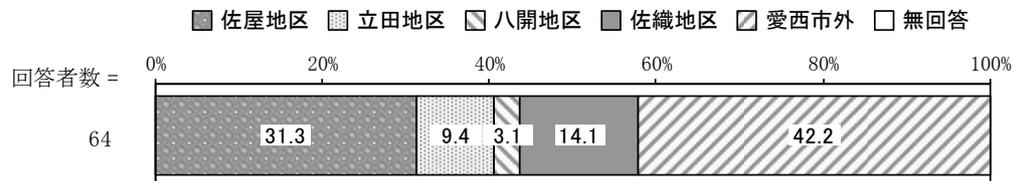
○「介護福祉士」の割合が72.0%と最も高く、次いで「主任介護支援専門員」の割合が36.0%、「社会福祉士」の割合が13.3%となっています。



(4) 介護保険事業者調査

○事業所の所在地は「愛西市外」の割合が42.2%と最も高く、次いで「佐屋地区」の割合が31.3%、「佐織地区」の割合が14.1%となっています。

■事業所の所在地【問1】



○事業所の職員数は（令和元年12月1日現在）、主任介護支援専門員では「0人」の割合が最も高く、それ以外の項目では「1人～5人」の割合が最も高くなっています。また、介護福祉士で「6人～10人」の割合が高く、約2割となっています。

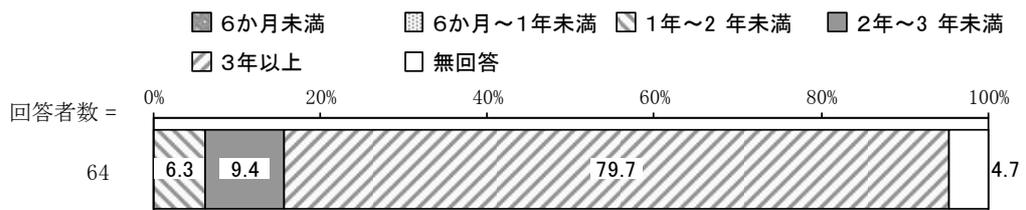
■事業所の職員数【問2】

単位：%

区分	有効回答数(件)	0人	1人～5人	6人～10人	11人～15人	16人～20人	21人以上	無回答
ホームヘルパー	64	6.3	32.8	9.4	9.4	-	-	42.2
介護福祉士	64	-	35.9	21.9	12.5	6.3	4.7	18.8
介護職員基礎研修修了者	64	14.1	20.3	4.7	1.6	-	4.7	54.7
介護支援専門員	64	6.3	18.8	14.1	9.4	1.6	-	50.0
主任介護支援専門員	64	18.8	6.3	3.1	1.6	-	-	70.3
その他の職員	64	-	28.1	18.8	9.4	1.6	14.1	28.1

○事業所職員の平均勤続年数は、「3年以上」の割合が79.7%と最も高くなっています。

■事業所職員の平均勤続年数【問3】



2 生活機能評価等に関する分析（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、機能別リスク該当者割合を判定条件をもとに算出し、分析しました。

（1）機能別リスク該当者割合の分析

① 運動器

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

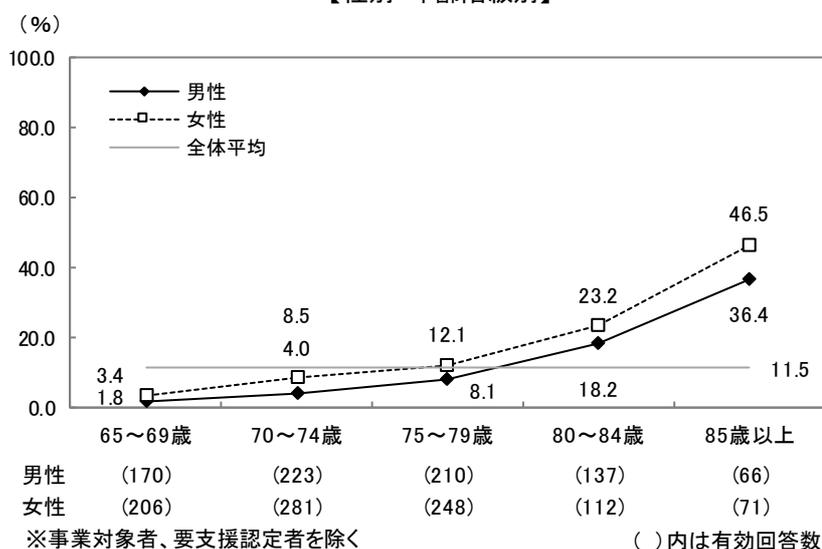
問番号	設問	該当する選択肢
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
問2(3)	15分位続けて歩いていますか。	3. できない
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

【リスク該当状況】

○国の手引きに基づく運動器の評価結果をみると、全体平均で11.5%が運動器の機能低下該当者となっています。

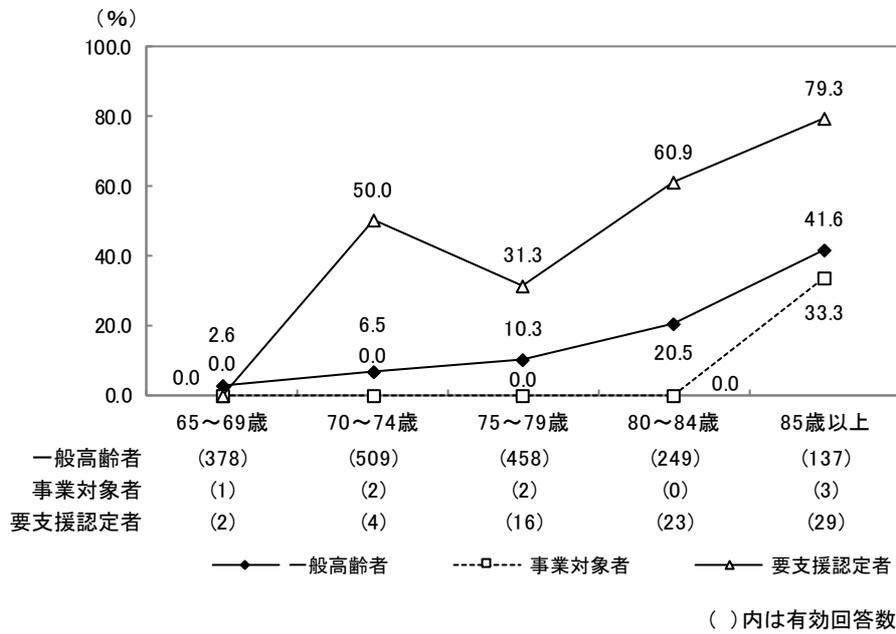
○性別・年齢階級別にみると、女性では、すべての年代で男性に比べて該当者割合が高く、85歳以上では46.5%と75～79歳に比べて34.4ポイント増加しています。一方、男性では、85歳以上では36.4%と75～79歳に比べて28.3ポイント増加しています。したがって、男性、女性ともに75歳以降で運動器におけるリスクが顕在化し、特に女性でリスクが高くなっています。

【性別・年齢階級別】



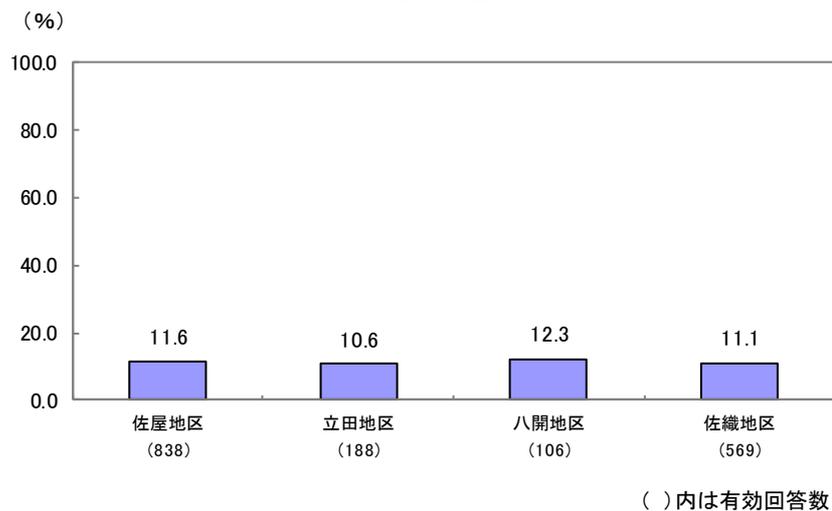
○認定・該当状況別・年齢階級別にみると、要支援認定者では、一般高齢者に比べて割合がとて高くなっており、80歳以上で該当者が70%以上となっています。

【認定・該当状況別・年齢階級別】



○圏域別にみると、佐屋地区、八開地区で該当者割合が全体平均の11.5%を超えています。また、最も高い圏域は八開地区で12.3%、最も低い圏域は立田地区で10.6%となっており、1.7ポイントの差となっています。

【圏域別】



② 閉じこもり

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

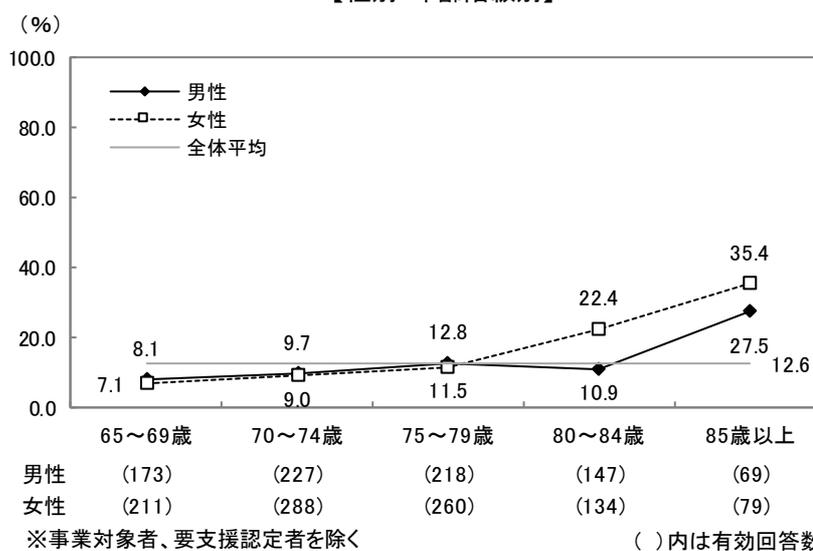
問番号	設問	該当する選択肢
問2(6)	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

【リスク該当状況】

○国の手引きに基づく閉じこもりの評価結果をみると、全体平均で12.6%が閉じこもりのリスク該当者となっています。

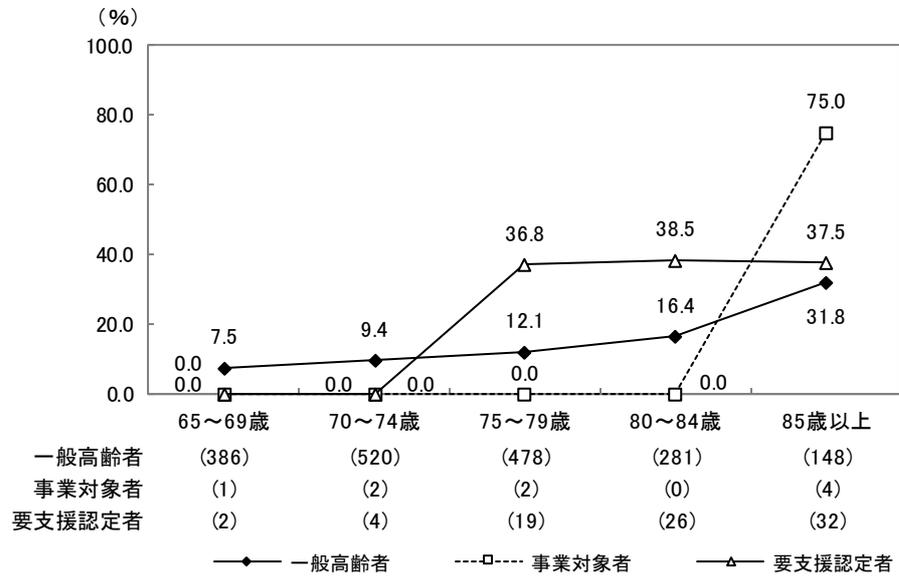
○性別・年齢階級別にみると、女性では、85歳以上で35.4%と80～84歳に比べて13.0ポイント増加しています。また、85歳以上では、男性に比べて女性で割合が高く、7.9ポイントの差となっています。男性、女性ともに80歳以上で外出の頻度が徐々に減少し、特に85歳以上で加齢に伴う身体状態の悪化などにより急激に外出の頻度が減少しています。

【性別・年齢階級別】



○認定・該当状況別・年齢階級別にみると、75歳以降、要支援認定者では、一般高齢者に比べて割合が高くなっています。また、一般高齢者では、年齢階級が高くなるにつれて割合が高くなっています。

【認定・該当状況別・年齢階級別】



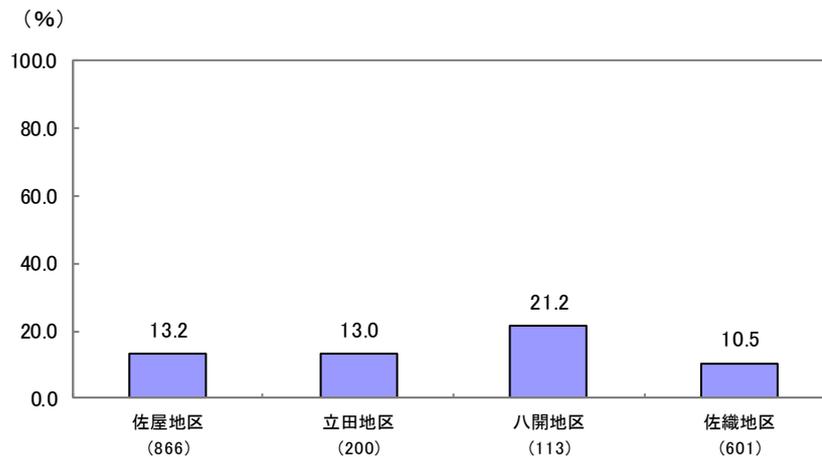
一般高齢者	(386)	(520)	(478)	(281)	(148)
事業対象者	(1)	(2)	(2)	(0)	(4)
要支援認定者	(2)	(4)	(19)	(26)	(32)

—◆— 一般高齢者 -□- 事業対象者 —△— 要支援認定者

()内は有効回答数

○圏域別にみると、佐屋地区、立田地区、八開地区で該当者割合が全体平均の12.6%を超えています。また、最も高い圏域は八開地区で21.2%、最も低い圏域は佐織地区で10.5%となっており、10.7ポイントの差となっています。

【圏域別】



()内は有効回答数

③ 転倒

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を転倒のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

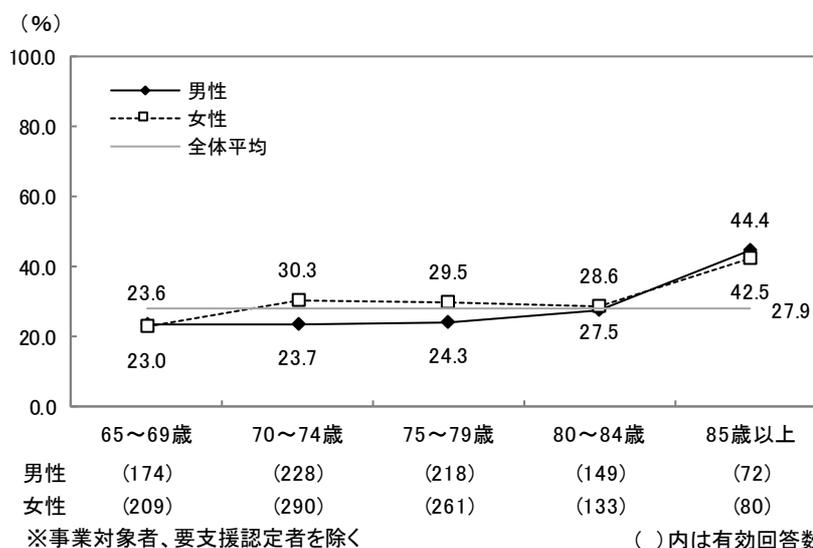
問番号	設問	該当する選択肢
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある

【リスク該当状況】

○国の手引きに基づく転倒の評価結果をみると、全体平均で27.9%が転倒リスクの該当者となっています。

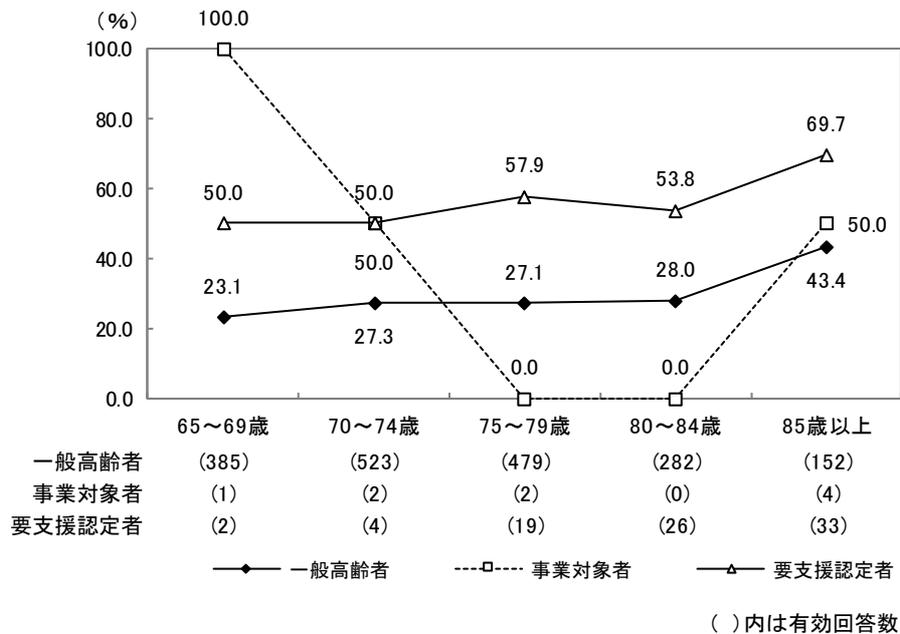
○性別・年齢階級別にみると、女性では、65～69歳と85歳以上を除き男性に比べて転倒リスクが高くなっており、70歳以上になると全体平均より割合が高くなっています。一方、男性では、80～84歳を境に増加し、85歳以上で44.4%と70～74歳に比べて20.1ポイント増加しています。したがって女性では、転倒によるリスクは、70歳以上で全体平均より高くなっており、男性に比べて10歳程度若い段階から全体平均を上回っています。

【性別・年齢階級別】



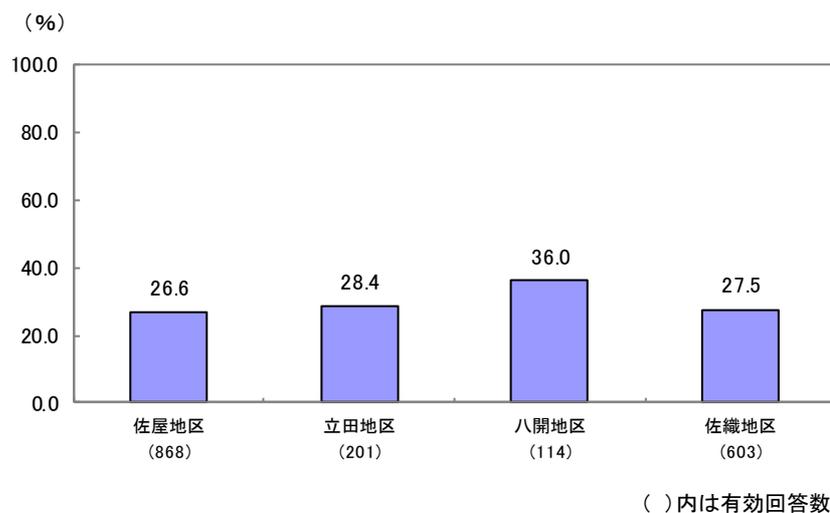
○認定・該当状況別・年齢階級別にみると、要支援認定者では、一般高齢者に比べて割合が高くなっています。また、一般高齢者、要支援認定者ともに85歳以上で急激に増加し、一般高齢者では43.4%と80～84歳に比べて15.4ポイント、要支援認定者では69.7%と80～84歳に比べて15.9ポイント増加しています。

【認定・該当状況別・年齢階級別】



○圏域別にみると、立田地区、八開地区で該当者割合が全体平均の27.9%を超えています。また、最も高い圏域は八開地区で36.0%、最も低い圏域は佐屋地区で26.6%となっており、9.4ポイントの差となっています。

【圏域別】



④ 栄養

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のすべてに該当する人を栄養のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

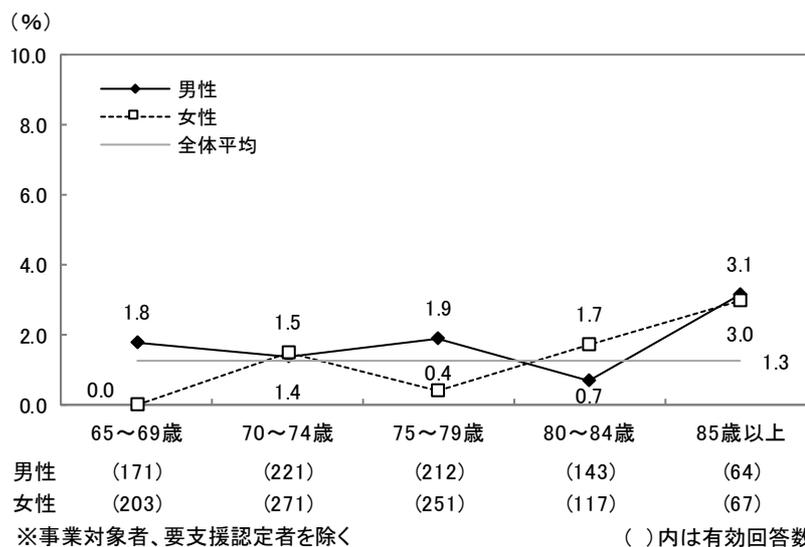
問番号	設問	該当する選択肢
問3(1)	身長・体重をご記入ください。	BMI 18.5未満
問3(8)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい

【リスク該当状況】

○国の手引きに基づく栄養の評価結果をみると、全体平均で1.3%が低栄養リスクの該当者となっています。

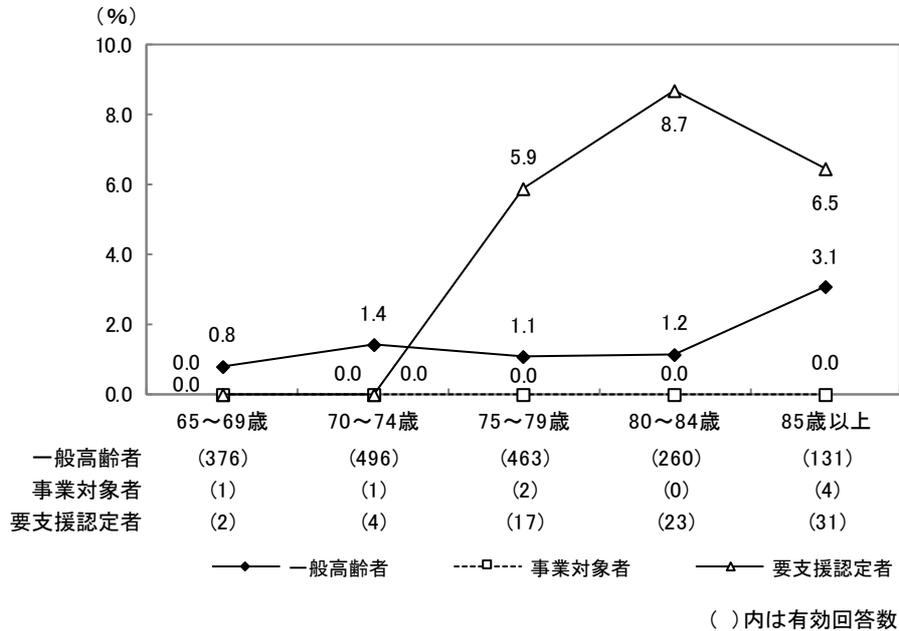
○性別・年齢階級別にみると、男性と女性を比べると85歳以上でも0.1ポイントと大きな差はありません。

【性別・年齢階級別】



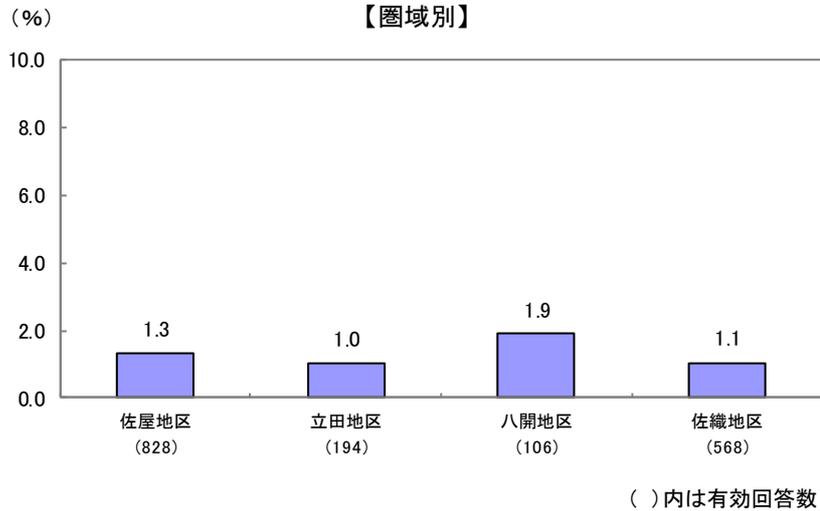
○認定・該当状況別・年齢階級別にみると、該当者割合は、要支援認定者では、80～84歳で8.7%と最も高くなっていますが、他のリスクに比べて加齢に伴うリスクへの影響は少ないことがうかがえます。

【認定・該当状況別・年齢階級別】



○圏域別にみると、八開地区で該当者割合が全体平均の1.3%を超えています。また、最も高い圏域は八開地区で1.9%、最も低い圏域は立田地区で1.0%となっており、0.9ポイントの差となっています。

【圏域別】



⑤ 口腔

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

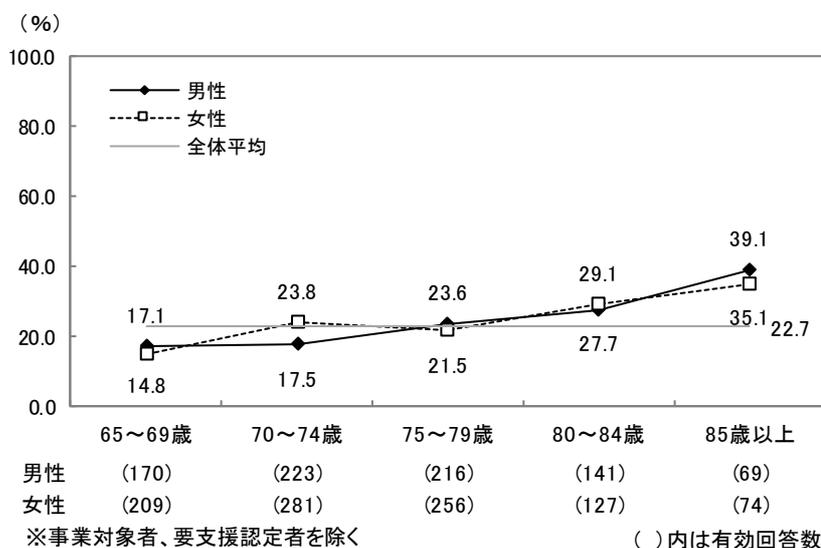
問番号	設問	該当する選択肢
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
問3(5)	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
問3(6)	口の渇きが気になりますか。	1. はい

【リスク該当状況】

○国の手引きに基づく口腔の評価結果をみると、全体平均で22.7%が口腔機能低下のリスク該当者となっています。

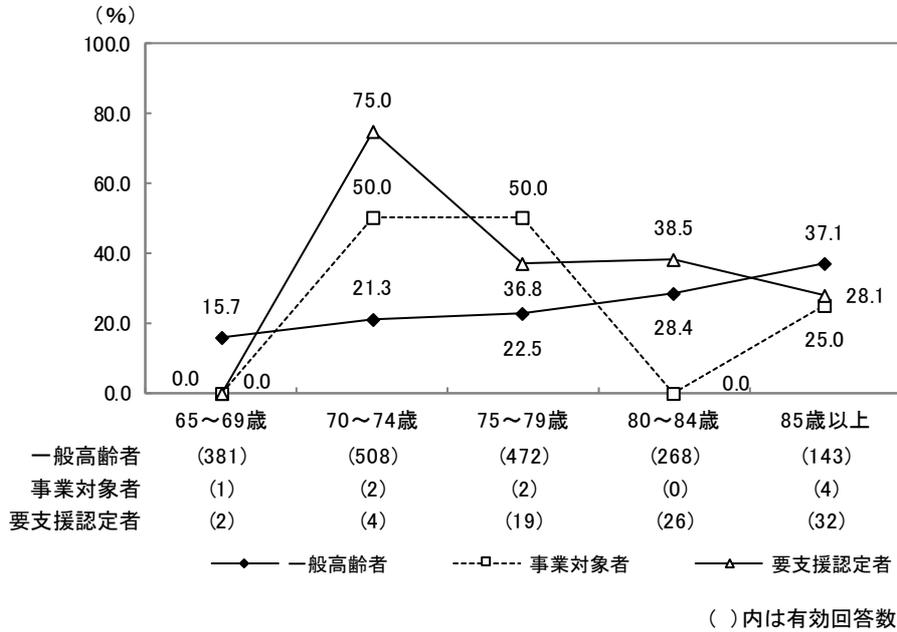
○性別・年齢階級別にみると、男性、女性ともに、80～84歳で全体平均を超えており、80歳以上になるとリスクが高くなることがうかがえます。男性では、85歳以上で39.1%と80～84歳に比べて11.4ポイント増加しており、女性では、85歳以上で35.1%と80～84歳に比べて6.0ポイント増加しています。

【性別・年齢階級別】



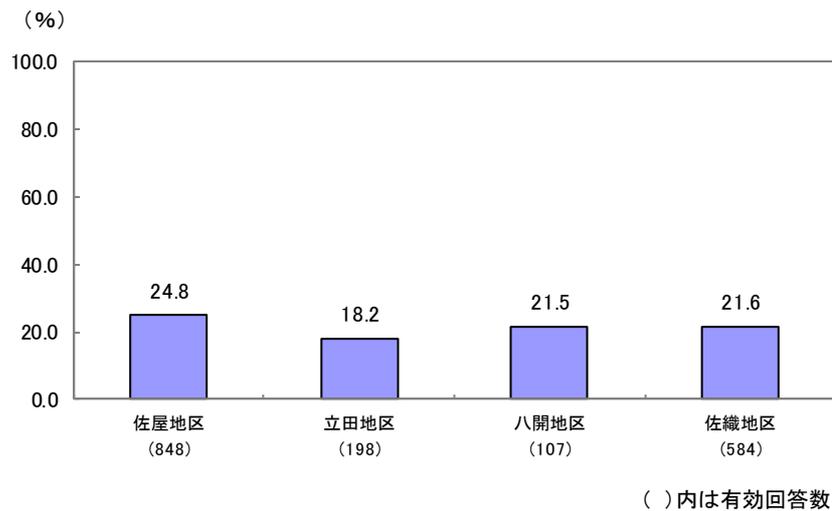
○認定・該当状況別・年齢階級別にみると、要支援認定者では、20～30%ですが、加齢に伴う影響はありません。一般高齢者では、年齢階級が上がるにつれて割合が高くなっています。

【認定・該当状況別・年齢階級別】



○圏域別にみると、佐屋地区で該当者割合が全体平均の22.7%を超えています。また、最も高い圏域は佐屋地区で24.8%、最も低い圏域は立田地区で18.2%となっており、6.6ポイントの差となっています。

【圏域別】



⑥ 認知

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、以下の項目に該当する人を認知のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

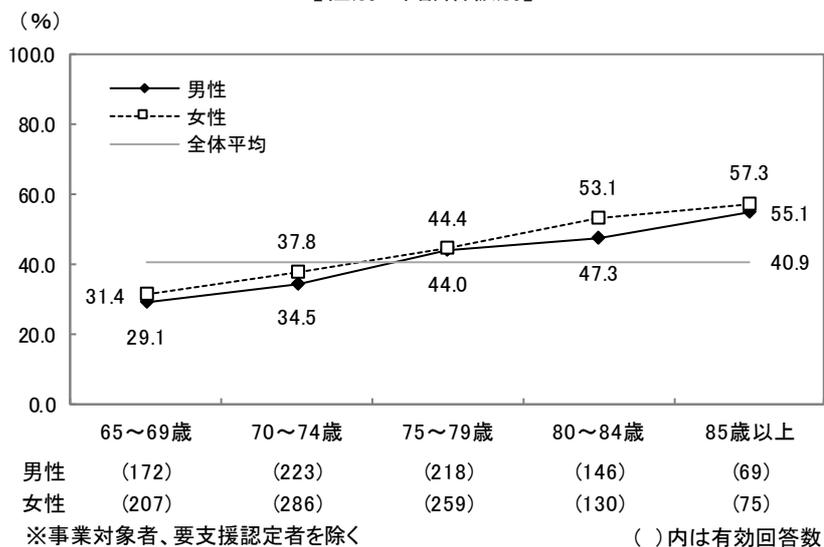
問番号	設問	該当する選択肢
問4(1)	物忘れが多いと感じますか。	1. はい

【リスク該当状況】

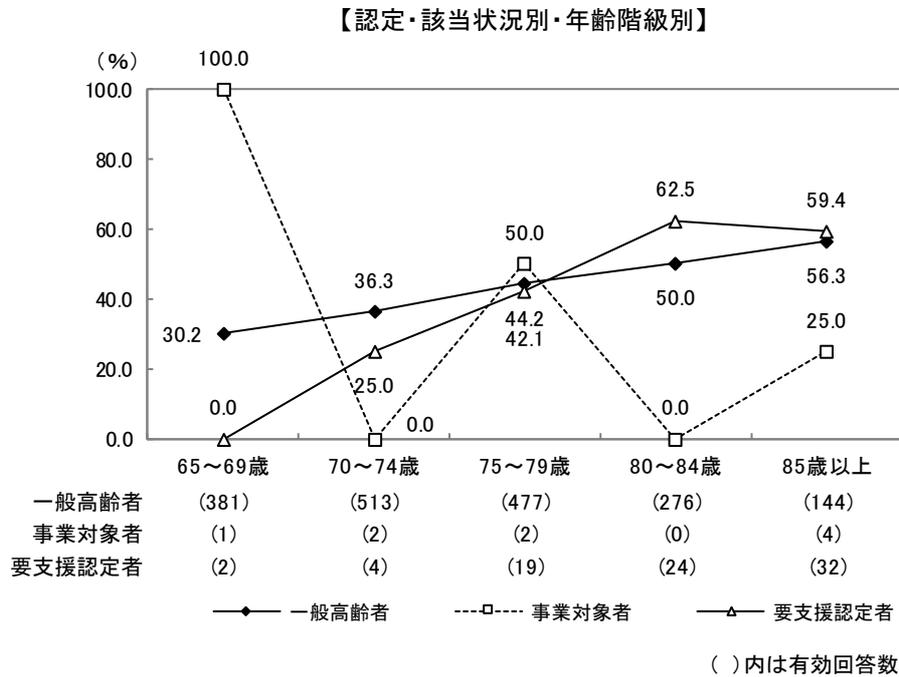
○国の手引きに基づく認知の評価結果をみると、全体平均で40.9%が該当者となっています。

○性別・年齢階級別にみると、男性、女性ともに年齢階級が上がるにつれて割合が高くなっています。また、85歳以上では、男性に比べて女性で割合が高くなっています。

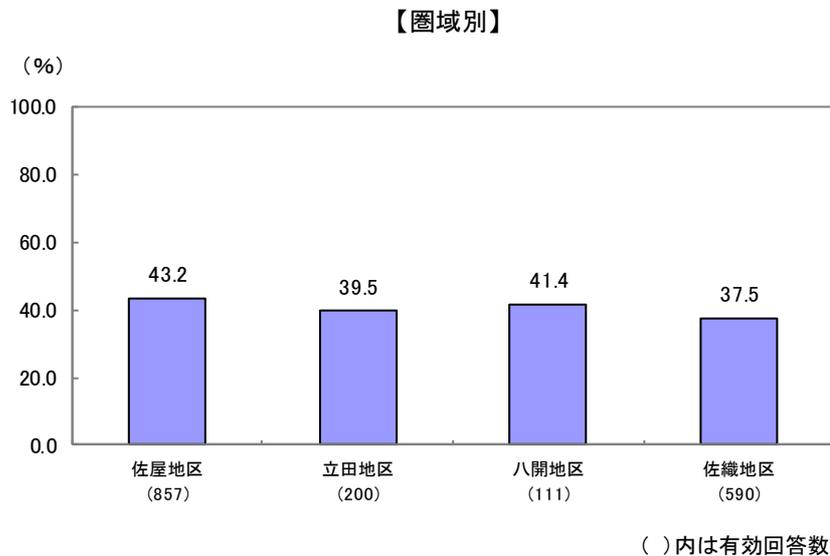
【性別・年齢階級別】



○認定・該当状況別・年齢階級別にみると、一般高齢者では年齢階級が上がるにつれて、割合が高くなっています。また、要支援認定者では、80～84歳で62.5%と最も高くなっています。



○圏域別にみると、佐屋地区、八開地区で該当者割合が全体平均の40.9%を超えています。また、最も高い圏域は佐屋地区で43.2%、最も低い圏域は佐織地区で37.5%となっており、5.7ポイントの差となっています。



⑦ うつ

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

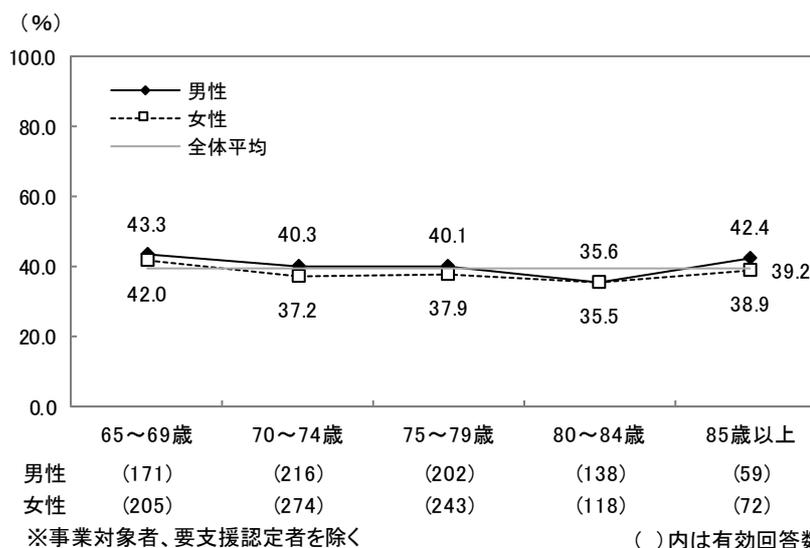
問番号	設問	該当する選択肢
問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

【リスク該当状況】

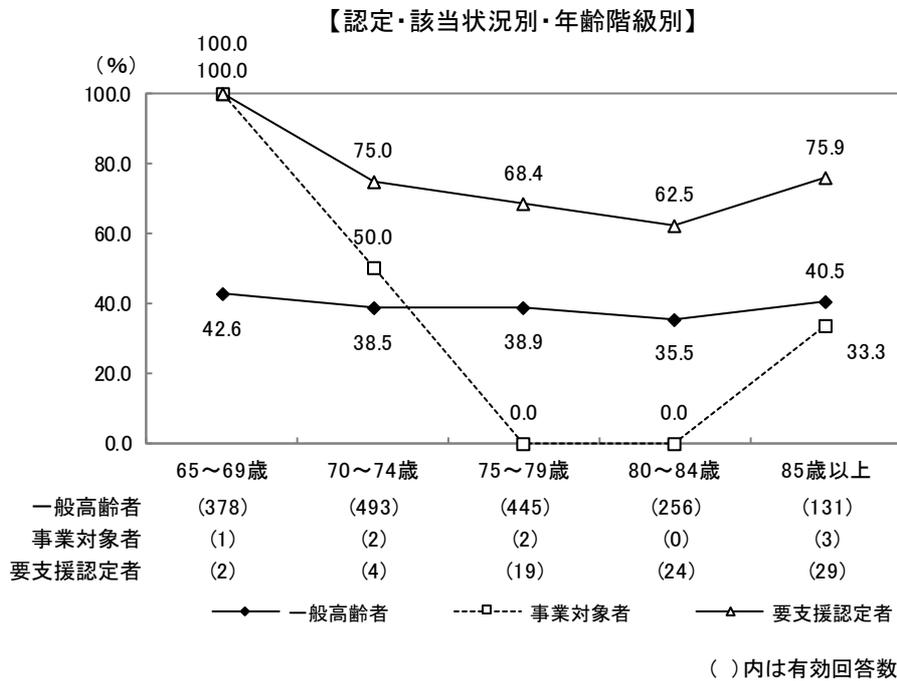
○国の手引きに基づきうつの評価結果をみると、全体平均で39.2%が該当者となっています。

○性別・年齢階級別にみると、80～84歳を除き女性に比べて男性で若干割合が高くなっていますが、どちらとも年齢階級での大きな変化はありません。

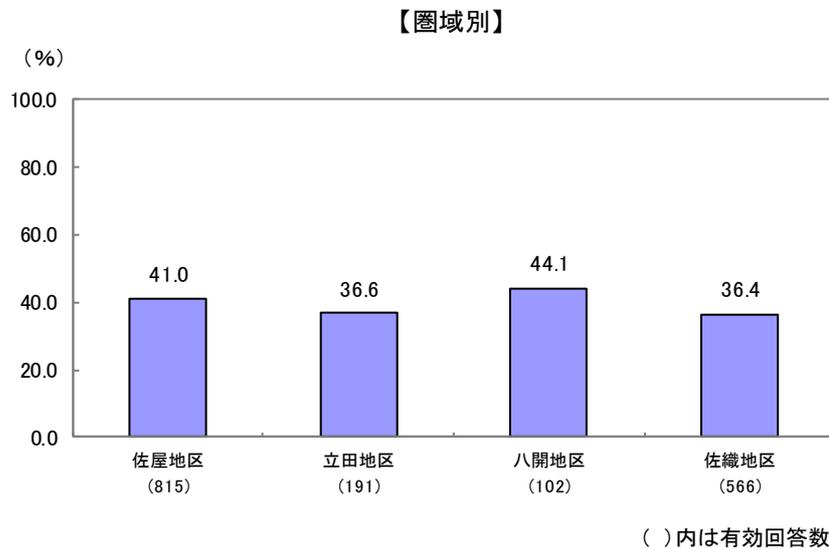
【性別・年齢階級別】



○認定・該当状況別・年齢階級別にみると、要支援認定者では、一般高齢者に比べて割合が高くなっており、85歳以上で75.9%と最も高くなっています。



○圏域別にみると、佐屋地区、八開地区で該当者割合が全体平均の39.2%を超えています。また、最も高い圏域は八開地区で44.1%、最も低い圏域は佐織地区で36.4%となっており、7.7ポイントの差となっています。



(2) 日常生活

① 手段的自立度 (IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標には、高齢者の手段的自立度 (IADL) に関する設問が5問あり、「手段的自立度 (IADL)」として尺度化されています。

評価は、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価しています。

また、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

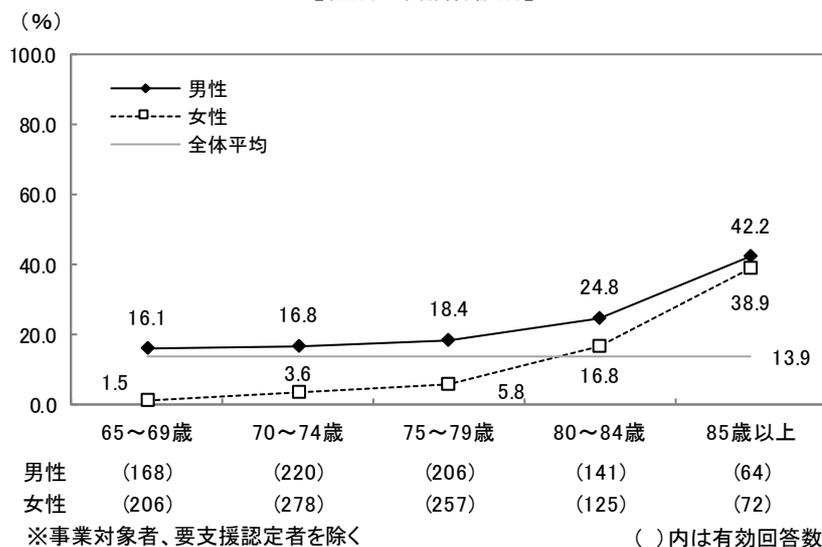
問番号	設問	該当する選択肢
問4 (2)	バスや電車を使って1人で外出していますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (4)	自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (5)	自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点

【該当状況】

○全体平均では13.9%が手段的自立度の低下者となっています。

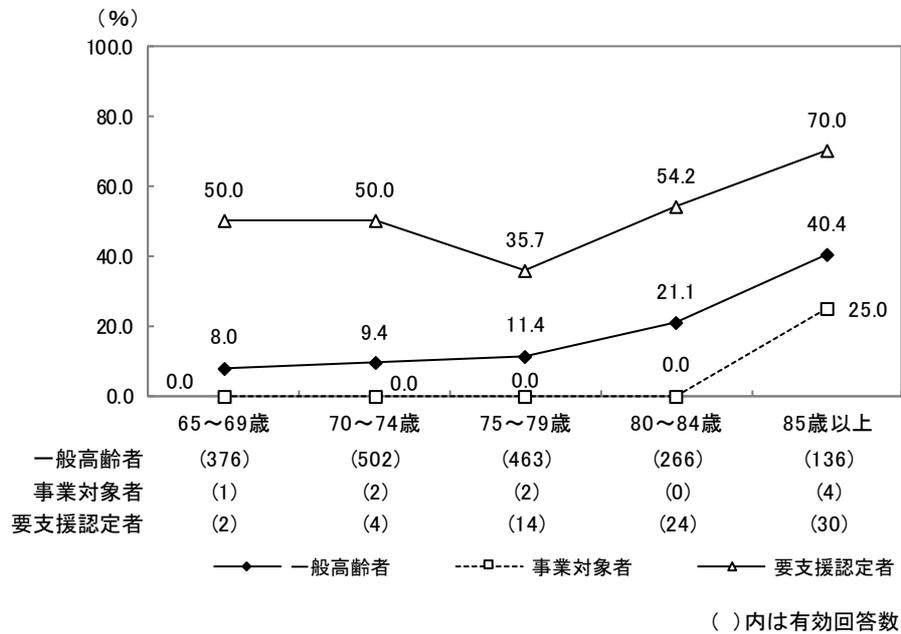
○性別・年齢階級別でみると、男性、女性ともに、85歳以上になると急激に増加しています。男性では、85歳以上で42.2%と80～84歳に比べて17.4ポイント、女性では、85歳以上で38.9%と80～84歳に比べて22.1ポイント増加しています。

【性別・年齢階級別】



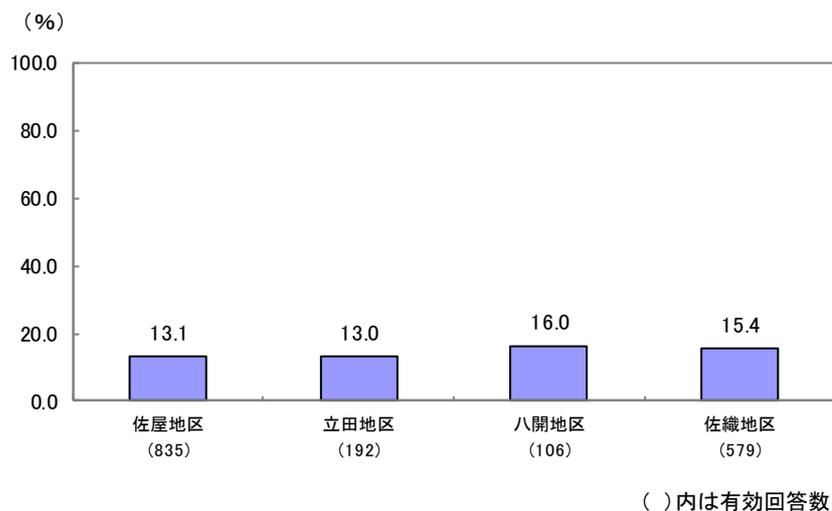
○認定・該当状況別・年齢階級別で見ると、要支援認定者では、一般高齢者に比べて割合が高くなっており、年齢階級が上がるにつれて、その差は小さくなる傾向となっています。

【認定・該当状況別・年齢階級別】



○圏域別にみると、八開地区、佐織地区で該当者割合が全体平均の13.9%を超えています。また、最も高い圏域は八開地区で16.0%、最も低い圏域は立田地区で13.0%となっており、3.0ポイントの差となっています。

【圏域別】



(3) 社会参加

① 知的能動性

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問あり、「知的能動性」として尺度化されています。

評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

また、3点以下を知的能動性の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

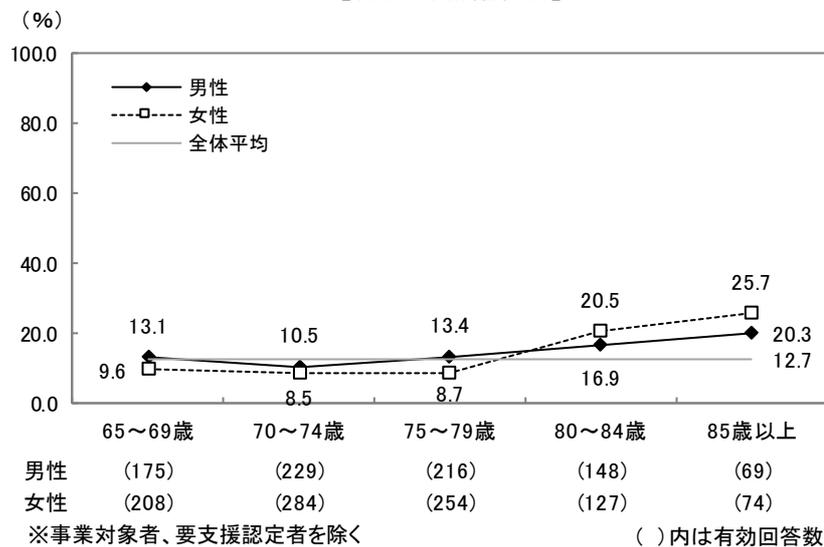
問番号	設問	該当する選択肢
問4 (9)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。	1. はい：1点
問4 (10)	新聞を読んでいますか。	1. はい：1点
問4 (11)	本や雑誌を読んでいますか。	1. はい：1点
問4 (12)	健康についての記事や番組に関心がありますか。	1. はい：1点

【該当状況】

○知的能動性の低下者は、全体平均では12.7%となっています。

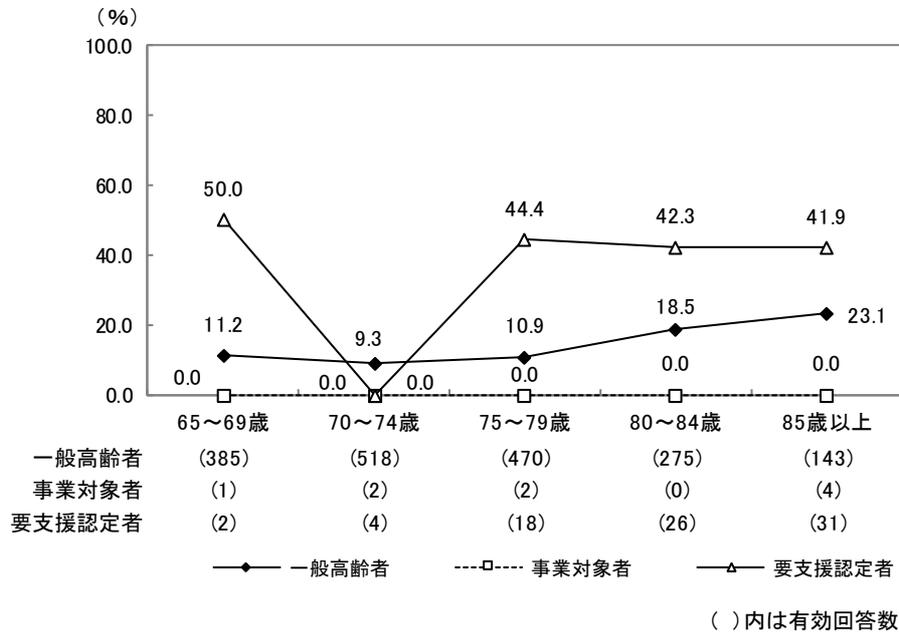
○性別・年齢階級別でみると、女性では80歳以降、急激に増加し、男性を上回っています。また、女性では、80～84歳で20.5%と75～79歳に比べて11.8ポイント増加しています。

【性別・年齢階級別】



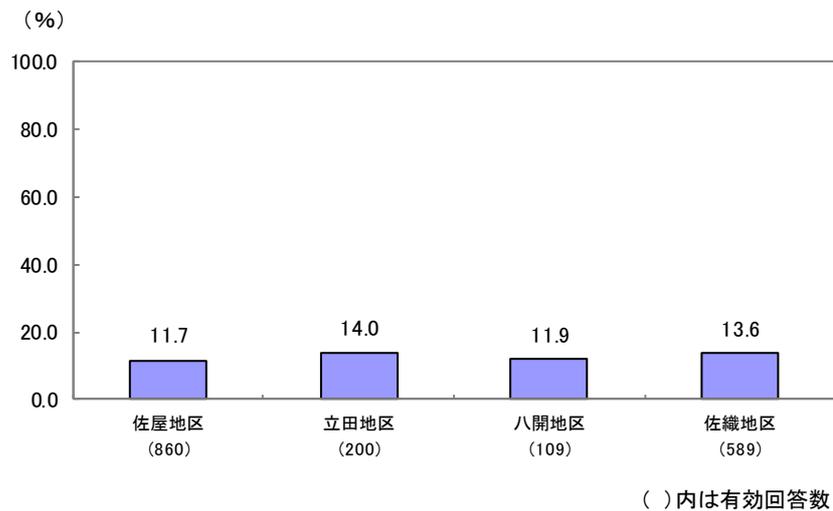
認定・該当状況別・年齢階級別で見ると、要支援認定者では、一般高齢者に比べて割合が高くなっており、年齢階級が上がるにつれて、その差は小さくなっています。

【認定・該当状況別・年齢階級別】



○圏域別にみると、立田地区、佐織地区で該当者割合が全体平均の12.7%を超えています。また、最も高い圏域は佐織地区で13.6%、最も低い圏域は佐屋地区で11.7%となっており、1.9ポイントの差となっています。

【圏域別】



② 社会的役割

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問あり、「社会的役割」として尺度化されています。

評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

また、3点以下を社会的役割の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

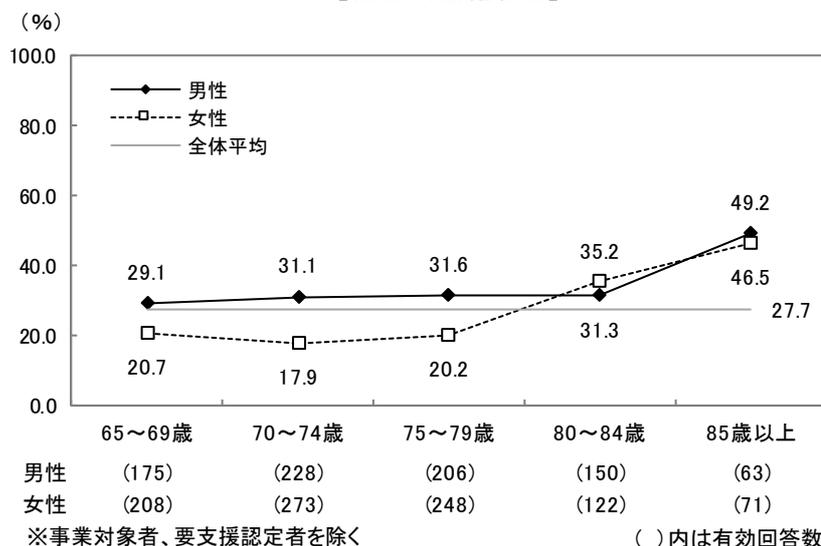
問番号	設問	該当する選択肢
問4 (13)	友人の家を訪ねていますか。	1. はい：1点
問4 (14)	家族や友人の相談にのっていますか。	1. はい：1点
問4 (15)	病人を見舞うことができますか。	1. はい：1点
問4 (16)	若い人に自分から話しかけることがありますか。	1. はい：1点

【該当状況】

○社会的役割の低下者は、全体平均では27.7%となっています。

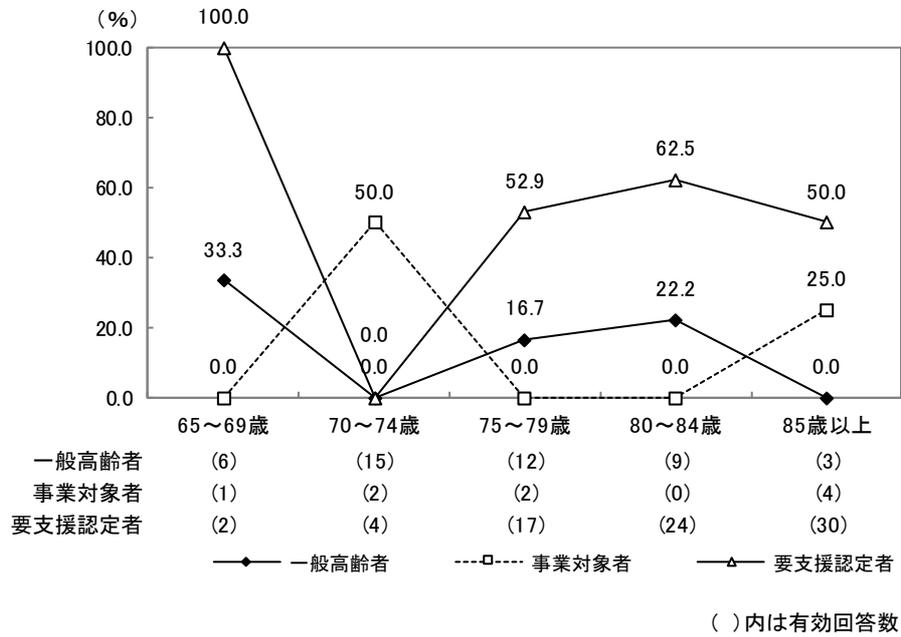
○性別・年齢階級別でみると、男性ではすべての年代で全体平均を上回っており、85歳以上で急激に増加し、49.2%と80～84歳に比べて17.9ポイント増加しています。女性では、80歳以降、急激に増加し、85歳以上で46.5%と75～79歳に比べて26.3ポイント増加しています。

【性別・年齢階級別】



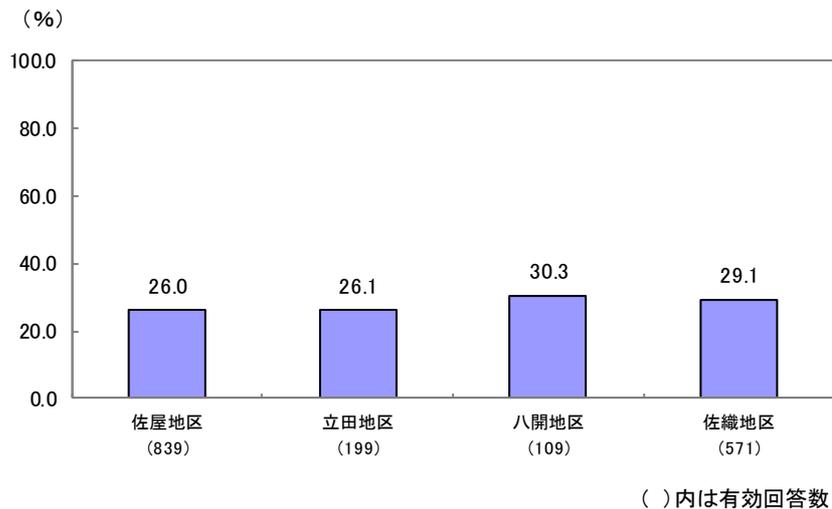
○認定・該当状況別・年齢階級別にみると、要支援認定者では、一般高齢者に比べて割合が高くなっており、80～84歳で62.5%と最も高くなっています。

【認定・該当状況別・年齢階級別】



○圏域別にみると、八開地区、佐織地区で該当者割合が全体平均の27.7%を超えています。また、最も高い圏域は八開地区で30.3%、最も低い圏域は佐屋地区で26.0%となっており、4.3ポイントの差となっています。

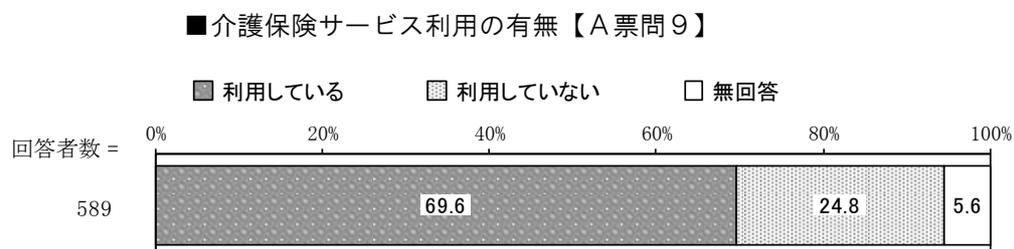
【圏域別】



3 介護実態調査の結果

(1) 介護保険サービスの利用状況

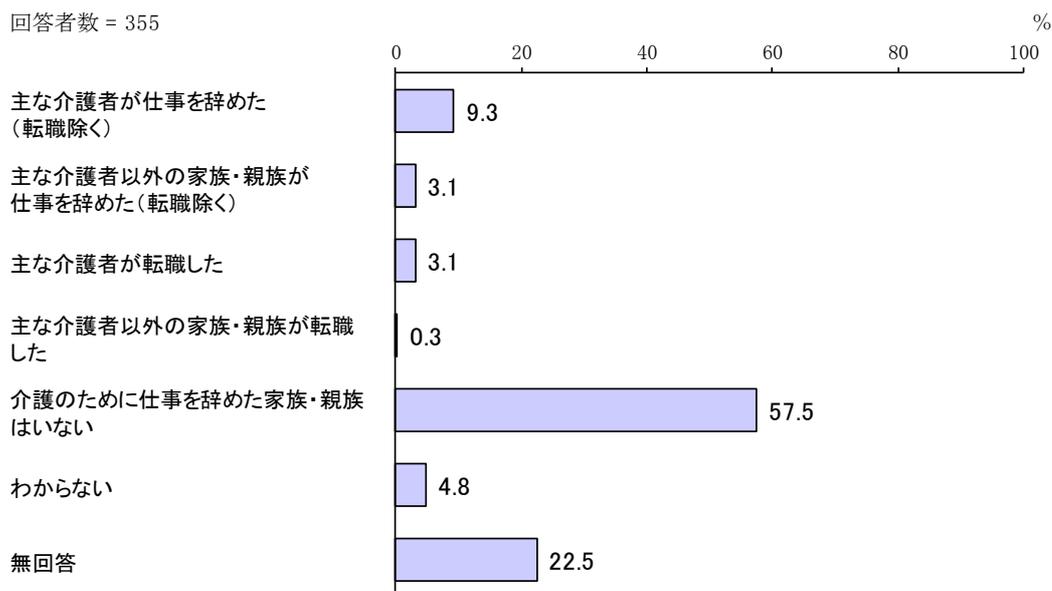
○介護保険サービスの医療状況は、「利用している」の割合が69.6%、「利用していない」の割合が24.8%となっています。



(2) 主な介護者の状況

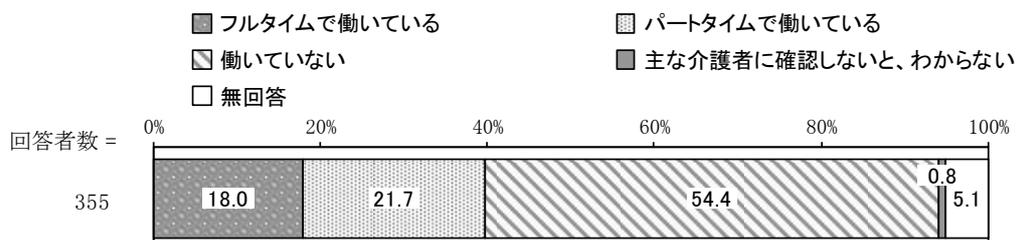
○介護のために仕事を辞めた家族・親族がいるかをみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が57.5%と最も高くなっています。

■介護のために仕事を辞めた家族・親族がいるか【B票問1】(複数回答)



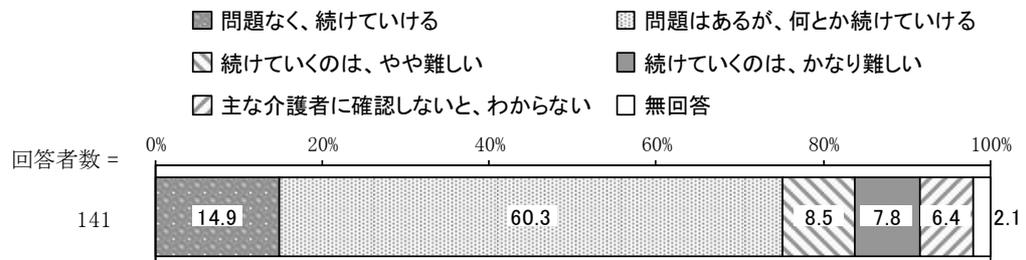
○「働いていない」の割合が54.4%と最も高く、次いで「パートタイムで働いている」の割合が21.7%、「フルタイムで働いている」の割合が18.0%となっています。

■主な介護者の就労状況【B票問9】



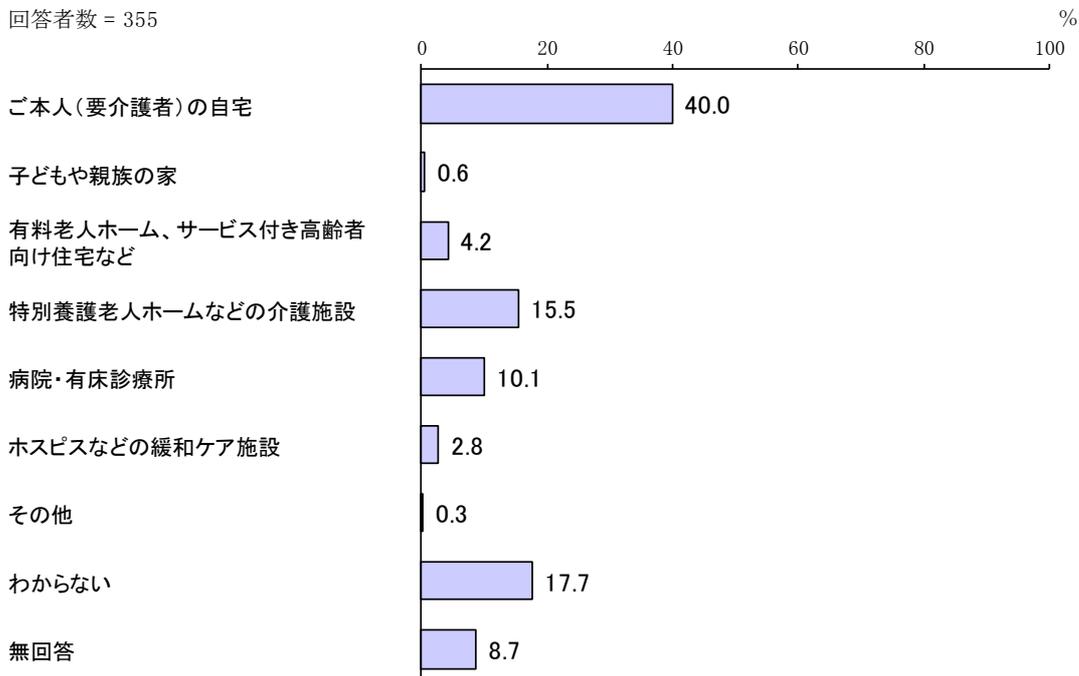
○主な介護者のうち就労している方について、今後も働きながら介護を続けていけそうかをみると、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた“続けていける”の割合が75.2%、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“難しい”の割合が16.3%となっています。

■今後も働きながら介護を続けていけそうか【B票問9-3】



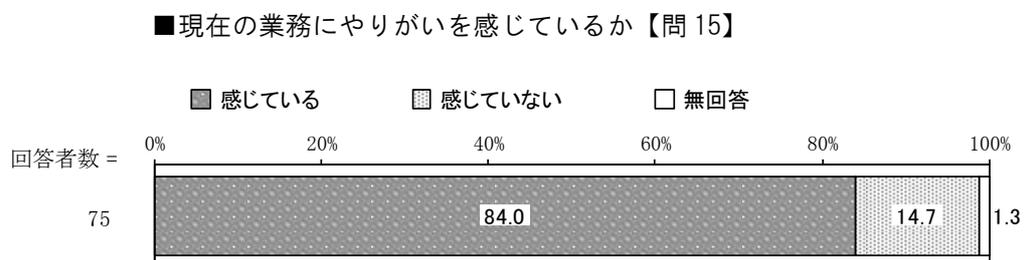
○主な介護者が将来、ご本人（要介護者）が終末期を過ごす際の希望する療養場所は、「ご本人（要介護者）の自宅」の割合が40.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が17.7%、「特別養護老人ホームなどの介護施設」の割合が15.5%となっています。

■ご本人（要介護者）が終末期を過ごす際に希望する療養場所
（主な介護者回答）【B票問13】

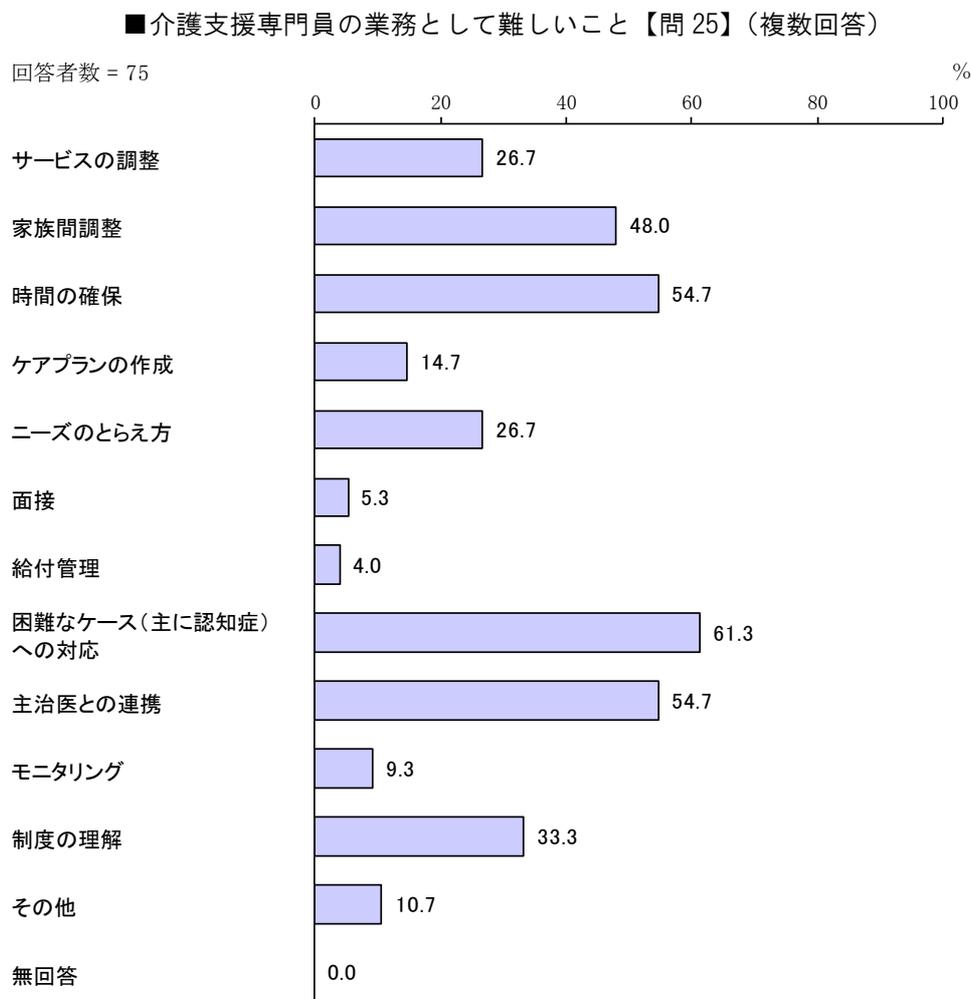


4 介護支援専門員調査の結果

○現在の業務にやりがいを感じているかをみると、「感じている」の割合が84.0%、「感じていない」の割合が14.7%となっています。



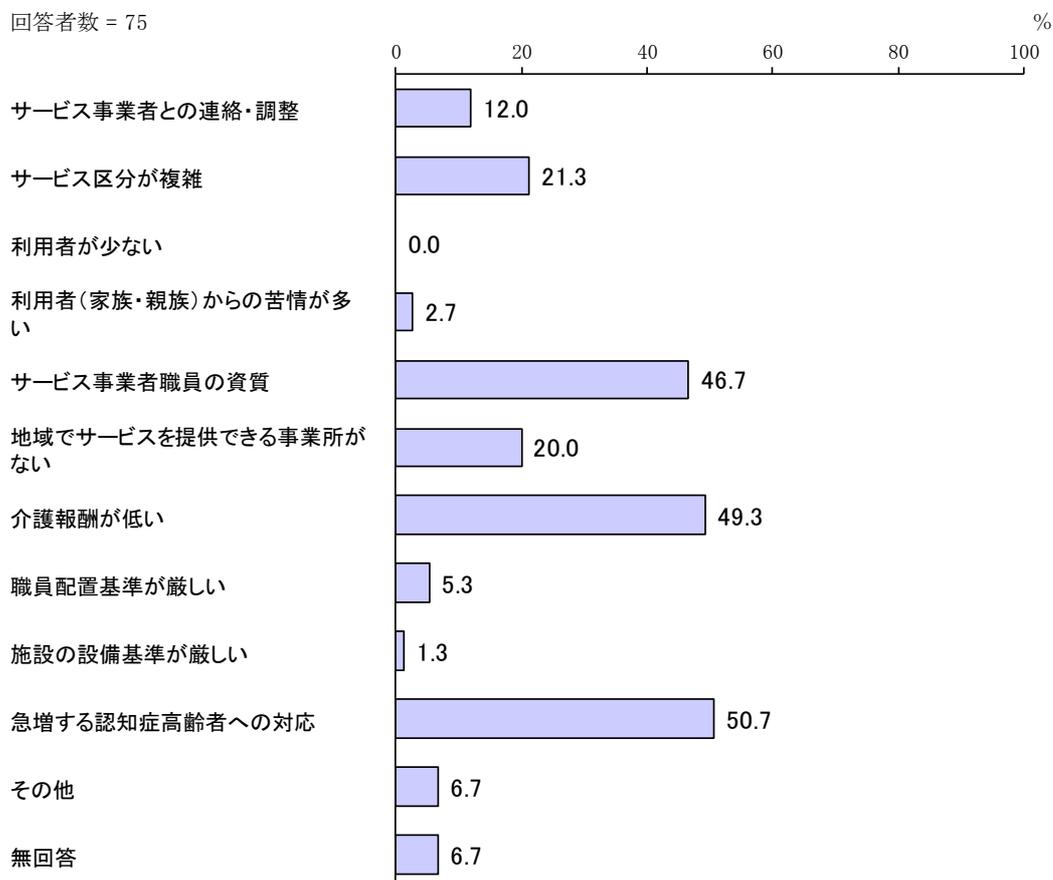
○介護支援専門員の業務として難しいことでは、「困難なケース（主に認知症）への対応」の割合が61.3%と最も高く、次いで「時間の確保」、「主治医との連携」の割合が54.7%となっています。



○介護保険制度の中で問題と感ずることでは、「急増する認知症高齢者への対応」の割合が50.7%と最も高く、次いで「介護報酬が低い」の割合が49.3%、「サービス事業者職員の資質」の割合が46.7%となっています。

■介護保険制度の中で問題と感ずること【問33】（3つまで選択）

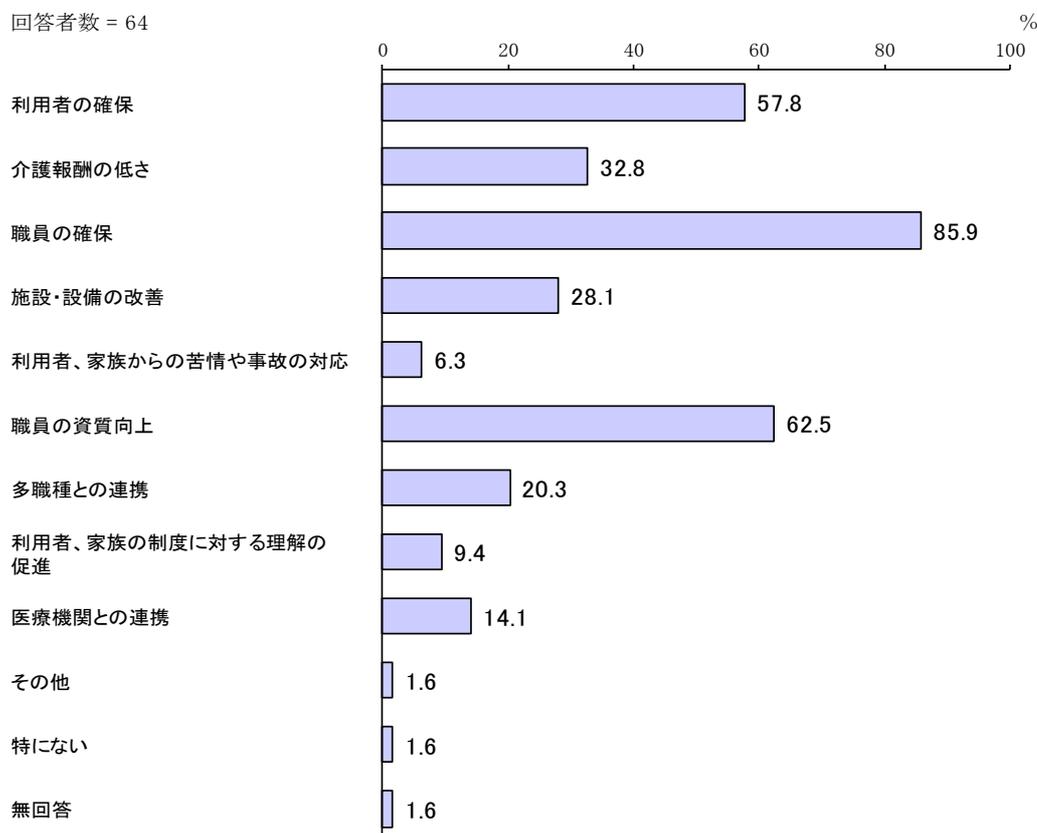
回答者数 = 75



5 介護保険事業者調査の結果

○運営にあたり課題となっていることをみると、「職員の確保」の割合が85.9%と最も高く、次いで「職員の資質向上」の割合が62.5%、「利用者の確保」の割合が57.8%となっています。

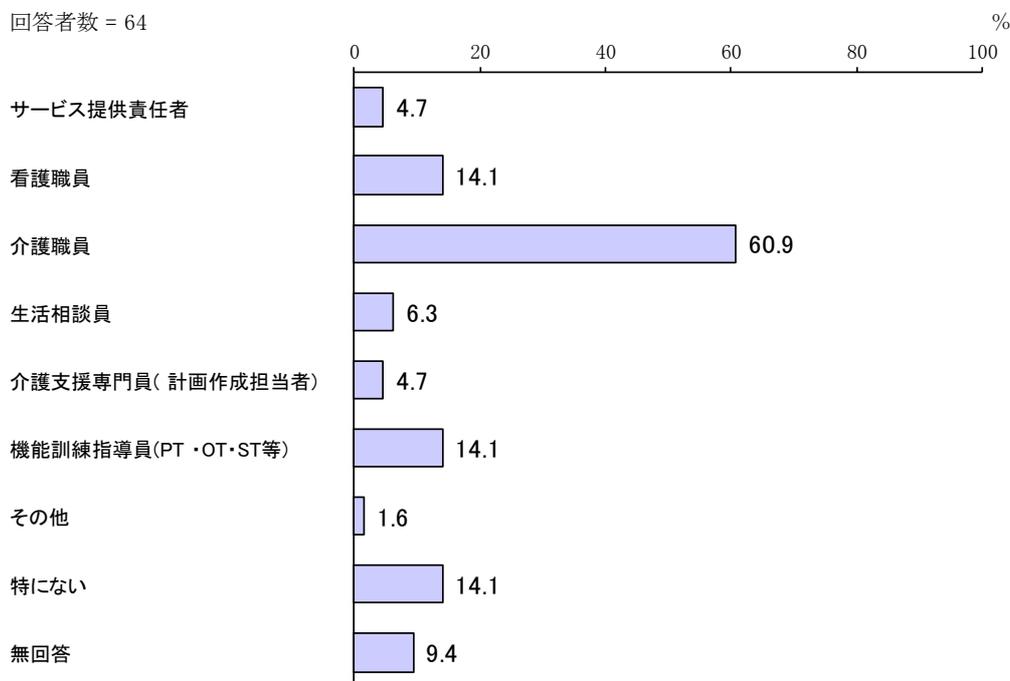
■運営にあたり課題となっていること【問4】（複数回答）



○事業所において、特に不足している職種では、「介護職員」の割合が60.9%と最も高く、次いで「看護職員」、「機能訓練指導員(PT・OT・ST等)」、「特にない」の割合が14.1%となっています。

■事業所で特に不足している職種【問6】(2つまで選択)

回答者数 = 64



○介護人材確保をどのように取り組んでいるかをみると、「求人広告掲載」の割合が65.6%と最も高く、次いで「新卒・中途採用枠の拡大」の割合が45.3%、「賃金面の充実」の割合が40.6%となっています。

■介護人材確保をどのように取り組んでいるか【問9】（複数回答）

回答者数 = 64

